

十一年前の黄金週間



串田 達治

「なんでもいいから今年の炬ばたセイ談に何か書いてみない？締め切りは8月31日」……………

毎度のことながら母からの指令は突然やってくる。冊子の編集長をされている方に入来花水会のホームページを作って頂いたそうで、そのお礼に原稿を集めているのだとか何とか。下品でなければテーマは何でもいいとの事なので気軽に引き受けてはみたものの、普段はフェイスブック等で友人相手にくだらない近況ばかり投稿している自分に高尚な文

章など書けるわけもなく、歴史ネタも特に思いつかないので途方に暮れながら入来にまつわる思い出の中で何かネタはないかと思案している……思い出した。世間に公表しているものかどうか迷ってしまうような究極の身内ネタがあったことを。

十一年前の平成二十三（2011）年、東日本大震災という未曾有の災害にみまわれてまだ間もないゴールデンウィーク真っ只中、不慮の事故により母方の祖母が急逝した。たまたま祖父が不在の時に運悪く自宅の石畳の上で転倒してしまい、相当打ちどころが悪かったようで3時間にも及ぶ大手術を施されるも残念ながら助からなかった。この数年前に祖母がガンで体調を悪くしていた時に家族を連れて見舞いに行き、その後回復して元気になったと聞いて安心していた矢先の出来事で、

ガンを克服してしまうような強い人が転んだだけで命を落としてしまうなんて・・・当時津波のことも相まって人間の一生など何が起ころるか本当に分からないと強く感じたことを覚えていいる。

亡くなった祖母の葬儀は5月5日に薩摩川内市内において、連休中に遠方から駆けつけた大勢の親族に見送られながら盛大に行われた。葬儀後ひとまず妻と子供たちは先に久留米の自宅に帰ってもらい、私は後片付け等で7日まで入来に残る事となるのだが、まさかこの後さらにとんでもない事態に巻き込まれることになるうとは！

色々前置きが長くなったが、本題はこの亡くなった祖母の、とても田舎のおばあちゃん葬式とは思えないほど盛大に行われた葬

儀後に待っていた、入来の屋敷の台所で起こった壮絶な出来事である。思い出すと色々つらくなるので以下、当時の私の日記を転載させていただく。

平成二十三年5月15日 (くしだんごの日記より抜粋)

連休から一週間が過ぎたというのになかなか疲れが取れない・・・

さて、思い出すのも嫌なのだが、ゴールデンウィーク後半の出来事を綴ろうと思う。

個人的にメールを下さった方の中には、身内の葬儀よりつらい出来事と聞いて心配された方もいたかもしれない。ただ、亡くなった祖母の形見ともいえる指輪を病院で紛失したとか、十人近い従兄弟たちを相手に三十路手

前のおっさんが鬼ごっこをして心筋梗塞を起こしかけたとかそういう類の「つらい」ではないのであしからず。

話は5月2日に急逝した鹿児島島の祖母の葬儀を無事終えた5日の午後まで遡る。

親族一同バスで火葬場から一時間ほどの入来の屋敷に戻ってきたのが午後5時頃。

悲しみと疲れからか、祖父が部屋に閉じこもってしまった・・・

これを心配した母が一週間ほど鹿児島に残って後始末を兼ねて祖父の面倒を見ることになった。ただ、本来は二泊の予定で久留米に遊びに来ていただけなので、着替え等を取りにいったん自宅へ帰ることに。



2009年、初孫の達治に次男誕生で久留米までパールックで曾孫に会いに訪れた入来院夫婦

連休で新幹線の予約が取れず、母が戻ってくるのが7日の夕方になりそうだということで、母の代理（身代わり）で私が7日まで鹿児島に残ることとなった。

まあ二日間だけだし、焼酎でも飲んで祖父を励ましつつのんびりしようと思い、葬儀の日の夜は親族で祖父を囲んでしこたま飲んだ（飲まされた）。

お酒が入ると祖父も徐々に元気を取り戻し、子や孫に囲まれてだんだんご機嫌になり、しまいには酔っぱらって「いや〜それにしても今日の披露宴は盛大だったな〜」とか言っていたような・・・

結局親族飲みは深夜まで盛り上がったのだが、翌朝、たった一通のメールが事態を一変させた。

「私が戻るまでに冷蔵庫及び台所の片づけを皆でしておくこと。時間があればお香典の集計も」

母からの指令だ。

当然ながらうちの母親の命令はすべてにおいて最優先される。それは母の兄弟の間でも同様のようだ。

メールの内容を居残り組に報告すると、昨夜あんなに楽しく飲んだのがまるで嘘だったかのように一同重たい雰囲気になった。

なぜなら、この屋敷の台所を片付けるという事がどういう事か皆理解しているからだ。

摩訶不思議なことにあれだけ多方面にわたって活躍した祖母は、びっくりするほど片

付けができない人だった。

世の中には身の回りの片づけができないくて困っている人などごまんといると思うが、面倒くさくて普段片づけをしないだけで、やろうと思えばちゃんとできる人たちは意外と多いと思う。

しかし、中には片付けの仕方が全く分からない本当に困った人もいるのだ。

世間一般的な感覚の持ち主である祖父が部屋全体の掃除、片付けはしていたらしく、全体的にちらかってはいないが、問題は台所である。

祖父は台所には立ち入らなかつたようだ。

つまり、親族皆見て見ぬふりをしていたの

だが、この屋敷で今一番片付いていない場所が台所なのである。

1日に祖母が病院に運ばれて以来、丸5日手つかず状態の「禁断の場所」。

ひとまず現場の確認に赴いた。

そこには事件現場かと見紛う光景が広がっていた・・・

・・・どこから手をつければいいのか一同途方に暮れていたが、ようやく覚悟を決めたのが午前十時前。以下、現場に立ち向かう勇氣ある隊員たちを紹介する。

隊員A・・・亡くなった祖母の長男さん。

ラ・サール出身の超エリートで音楽活動もされているのだが、なぜだかオーラが感じられない。

隊員B・・・Aの奥さん。きれいな好きな方なのか、片付ける前から精神的なショックを受けている様子。

隊員C・・・AとBのひとり娘で現在大学三年生。若いってすばらしい。

隊員D・・・亡くなった祖母の三男さん。長野のお寺で住職をされている。昨夜も最後まで飲んでいた酒豪。

隊員E・・・Dの奥さん。こちらのご夫婦は三男一女と子沢山。

隊員F・・・亡くなった祖母の末娘。私の母と十四歳も年が離れているため感覚的に叔母というよりは姉に近いかも。

隊員G・・・Fのご主人。とある料亭の副料理長であるという理由だけで現場監督に満場一致で選ばれたかわいそうな人。

以上私を含めて作業員は総勢8名。

ガスマスクと防護服の用意が整わないまま監督の指示で片付け作業が始まってしまった。

作業開始2分ほどで隊員Dの姿が見えなくなつたが、テーブル上は分別に戸惑つたものの一時間ほどで片付いた。

平行して行った流し台の片づけも、当初は天空の城ラピュタに出てくる海賊船の流し台みたいだったものが、そこはさすがに現役バリバリの主婦である隊員B、E、Fらの奮闘によつて人間が使える程度に片付いた。

しかし、問題は冷蔵庫の中身である。

昼休憩をはさんだ後、隊員全員が固唾をのんで見守る中、監督である隊員Gがそっと冷蔵庫の扉を開けた。

ついにパンドラの箱を開けてしまったのだ……

冷蔵庫は隙間もないほどの食材で埋め尽くされていた。

亡くなった祖母はスーパーで気に入った食材を買い、買ったことを忘れてまた同じ品を買うといった行為を繰り返していたのだろうか。

とにかく、同じキムチの瓶が4個もあるの

はそういうことでしか説明がつかない。

冷蔵庫の片づけで一番大変だったのは、人間が食せるものとそうでないものにと選別する作業だった。ただ、ほとんどの食材の賞味期限が切れていたため捨てる作業といっても差し支えないのだが。

午前中に片付けたテーブルの上が今度は「かつて食材だったもの」で埋め尽くされた。

2009/04のなめ茸。

2008/11の納豆。

2010/03の漬物などなど。

日付はお察しの通り。

手前はここ4、5年前の代物がほとんどだったが、奥のほうで安置されていたものの中

には90年代に突入するツワモノも潜んでいた。

鮭フレックも96年ものになるとサーモンピンクからダークグレイに変色するらしい。

食事中にこの拙い文章を読んでいる気の毒な読者もいらつしやるかと思うのでこのあたりで自主規制する。

作業がはかどらない理由のひとつは、入れ物と中身が高い確率で違っていることだった。全部使い切った食材の入れ物（主に瓶）に別の食材を入れて保管していたようである。

作業の進捗状況を報告するついでに母に指示を仰いだ。

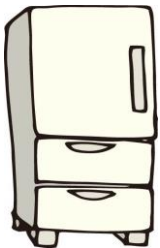
「ごはんですよの瓶の中にうめぼしが入ってたりするんだけど、全部捨てていいよね？」

「一応中身確認してから捨てなさいよ」

・・・確認って・・・毒見ですか？！

監督（副料理長）である隊員Gの身に危険がせまった。

おりしもユッケで食中毒を起こした患者が死亡したというニュースが世間を騒がせている時期である。何事もなければよいが・・・



冷蔵庫の作業開始から2時間も経過すると台所の腐臭がとんでもないものになっていた。

私を含め現場作業中の隊員たちは感覚が麻痺して気づかなかつたのだが、ふらつと様子を見に来た隊員Dがものすごい形相で台所の窓を開けた。

窓を開け放ったことで飛来してくる虫さんなたちを追い払いながら、普段は食材を大切に扱っているはずの隊員Gが問答無用で全部捨てたのでようやく作業がはかどってきた。

夕方にさしかかり、野菜室の中から凍死したゴキ〇リを数体発見したあたりで女性隊員たちの姿が見えなくなった。

本日中に冷蔵庫内への放水まで終わらせたい。

ようやく片付け作業にも終わりが見えてきた午後6時頃、報告が入った。

「監督っ！」

庭の倉庫にも稼働中の冷蔵庫を発見しました！

中に卵が60個ほど安置されている模様……」

ぼくたちの連休は、まだはじまっただばかりだった。

(炉ばたセイ談庵主の初孫)